

科目名	応用言語学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて言語学の研究に従事		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 3年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人間言語の特性について説明できる	
	○					言語の要素とその機能について説明できる	
	○					意味論・形態論・統語論・語用論などの構造と基本概念を説明できる	
	○					国文法の基本が説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語学系の国家試験過去問題の特徴				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	2	音素・ミニマムペア系の問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	3	恣意性・分節性の問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	4	意味論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	5	形態論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	6	統語論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	7	語用論に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	8	国文法に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	9	修飾に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	10	n項動詞に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	11	国家試験対策言語学アクティブラーニング				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	12	言語学ミニ模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	13	言語学ミニ国家試験模擬試験の解説				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	14	言語学模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
15	言語学国家試験模擬試験の解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と模擬試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	言語聴覚マネジメントと研究法						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科3年						
授業概要	組織における役割と求められる行動を修得する。生涯学習する行動を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				病院施設の組織の全体像を学び、組織マネジメント、連携について説明することができる。	
	○	○				医療従事における質的補償及びリスクマネジメントについて説明することができる。	
	○	○				研究法の基礎を理解し、他者の研究を読み取ることができる。	
	○	○				論文レビューを積み重ねることができる。	
	○	○				経験を基にした自身の学びを発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:リハビリテーション管理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	病院・施設の組織			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	2	コンプライアンス			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	3	労務管理			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	4	組織マネジメント			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	5	多職種連携			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	6	医療の質的補償			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	7	リスクマネジメント			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	8	論文レビューの仕方			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	9	論文抄読の仕方			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	10	論文抄読会			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	11	実習報告準備			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	12	実習報告会			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	13	研究法基礎			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	14	分析法の基礎			論文検索し、レビューを積み重ねる。		
15	まとめ			論文検索し、レビューを積み重ねる。			
評価方法	1)成果物評価:受講ごとのまとめを成果物として別途基準に合わせて評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科3年						
授業概要	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				検査・評価・診断の内容を根拠をもって選択し説明することができる。	
	○	○				言語聴覚障害に関わる疾患の病態について説明することができる。	
	○	○				治療目標や計画立案の内容を根拠をもって計画し説明することができる。	
	○	○	○	○		臨床実習後OSCEを通して自分の課題を知り説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	資料を配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語聴覚療法の実際について振り返り/臨床実習後OSCEについて説明			配布資料の内容について30分程度復習しておくこと		
	2	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	3	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	4	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	5	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	6	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	7	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	8	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	9	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	10	臨床実習事後セミナー(検査について)			自主練習を2時間以上行う		
	11	臨床実習事後セミナー(評価について)			自主練習を2時間以上行う		
	12	臨床実習事後セミナー(診断について)			自主練習を2時間以上行う		
	13	臨床実習事後セミナー(訓練内容について)			自主練習を2時間以上行う		
	14	臨床実習事後セミナー(リハビリテーションにおける言語聴覚療法について/ICFの考え方を土台にして)			配布資料の内容について1時間程度復習しておくこと		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技テスト)	○	○	○	○		40%
	発表	○	○		○		40%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意							